

開催期間:

2012/7/4~7/14

一回目の送付の際は文字は黒で 2回目以降は修正部分を赤字にしてください

スタッフ:

19members

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

支援者:

協力:盛岡市、盛岡市教育委員会、盛岡商工会議所、岩手大学国際交流センター  
参画者:岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、大学生8名

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

予算:

4,302 US Dollar

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

利益／損失:

NONE

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

誰の為に？

盛岡市に住み暮らす人々(2010年10月1日現在 298,348人)

主語を忘れないように「我々 JCIO〇は、」「我々委員会は、」です。

## 目的:

JCI 盛岡は、盛岡市民 (citizen) がこのまち (コミュニティ) に暮らすことに誇りを持つために、まちについての知識を深めることを目的とした。  
JCI 盛岡は、市民 (citizen) がこのまちの知識を深めるために、まちの価値を認識する機会を提供することを目的とした。  
JCI 盛岡は、まち (コミュニティ) をより良くするため能動的に行動する市民 (citizen) の育成を目的とした。

3 行程度 400 字以内

- ① JCI 盛岡は、明るい豊かな社会 (eternal world peace) の実現の為には、まちに暮らす人々がまずは郷土愛を育むことが必要と考えた。
- ② 近年、盛岡市では歴史・文化・風習についての市民の知識低下が問題となっていた。
- ③ JCI 盛岡は、盛岡の歴史的価値が忘れ去られることは、まち (コミュニティ) 自体の価値の低下と、未来に対するビジョン喪失の危機と考えた。
- ④ 特に18歳～24歳の若者の人口流失が著しく、その理由の一つがまちの価値低下が一因であると考えた。
- ⑤ ①～④の理由によりJCI盛岡は、市民 (citizen) がまちの歴史・文化・風習を正しく知り、まちに対する誇りを持ち、能動的にまち (コミュニティ) を考える人材の育成が必要と考えた。
- ⑥ 特に④において、より強い当事者意識を育成するため、事業の運営者として大学生の参加が必要と考えた。

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

<p><b>概要:</b></p>	<p>JCI 盛岡と次世代を担う学生達が、「まちの価値を創造する」をテーマにグループワークを重ね、一般市民を対象とした、盛岡市内を写真撮影しながら歩く、「まち歩きプログラム」を構築・実践した。 (プログラム名: Moriwalker モリウオーカー)</p>
<p>全部で 400 字以上</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① JCI 盛岡は、まち(コミュニティ)の問題を解決する為に、次世代を担う学生達を募集した。</li> <li>② JCI 盛岡と参画学生達が、まち(コミュニティ)の魅力について一緒に学んだ。</li> <li>③ JCI 盛岡と参画学生達が主催となり、市民(citizen)に対してまち(コミュニティ)を学ぶ機会を提供した。</li> <li>④ JCI 盛岡と参画学生達が主体となり、市民(citizen)とのグループワークでプログラムプランを議論した。</li> <li>⑤ ③、④を経て、JCI 盛岡と参画学生達がプログラムを企画立案した。</li> <li>⑥ JCI 盛岡と参画学生達がプログラムを実施した。</li> </ol>
<p>主語を忘れないこと、単語は 7 つ以下で 1 文とすること</p>	
	<p>結果をキチンと確認しないとココは書けません。 解らない場合はすぐに関係者、参加者にアンケートをとり 関係者からのプラスとマイナスの評価を入手して下さい。</p>
<p><b>結果:</b></p>	<p>市民(citizen)が事業を通してコミュニティの知識を深めることに成功した 市民(citizen)がグループワークを実施することでコミュニティの価値を発見した。 市民(citizen)自らの役割を自覚した。彼らは積極的に課題に取り組む意欲を育んだ。</p>

グループワーク当日、51名の市民(citizen)が参加した。  
彼らは4つのグループに分けてまち(コミュニティ)の価値を話し合った。  
その結果  
コミュニティの価値は、歴史に裏付けられた、  
文化・風習・食・風景・建造物・人物であるという回答を導き出した。

事業当日、152名の市民(citizen)が参加した。  
アンケートでまち(コミュニティ)の知識を深めたことを確認した。  
■質問:この事業に参加してなにか発見はありましたか？  
(発見があった94.1% 発見がなかった0% どちらでもない5.9%)  
・歩いて気持ちのいいまち(コミュニティ)。自慢できることに気がついた。20代男性  
・見所が多く、まち(コミュニティ)の良さを再認識した。40代男性

同アンケートにおいて。  
市民(citizen)がまち(コミュニティ)の課題に積極的に取り組む意欲を育んだことを我々は確認した。

■質問:今度このような事業を行う際、創るところから参加してみたいですか？  
(参加したい88.2% 参加したくない0% どちらともいえない11.8%)

同アンケート(プログラム参画対象者 大学生11名)  
参画学生がまち(コミュニティ)の課題に積極的に取り組む意欲を育んだことを我々は確認した。

参画大学生の感想(一部抜粋)

■質問:参画側として感じた変化は？  
・事業を通して、まち(コミュニティ)の1つ1つが見えてきて、まち(コミュニティ)に愛着が持てるようになった。  
・まち(コミュニティ)の素敵なところや面白いところをもっと知り、多くの人に伝えたいと思った。  
・(コミュニティ)のために努力している方々の姿を見て、自分もまち(コミュニティ)のために、自分にできる何かに挑戦したいと思った。

プログラム後、参画学生達が能動的に変化し、自らまち(コミュニティ)活性化の企画を立ち上げた。

以下が主な活動実績

① 商店街の情報紙『うえだっしょ!!』の作成(2012年冬)

学生達が大学の近隣にある商店街の魅力を学生や一般市民に発信すべく、商店街の方々にご協力を得て、取材・編集・デザインに取り組み、情報誌を作成した。

② 盛岡八幡宮秋の例大祭への参画(2012年秋)

学生達が300年続く秋祭りの運営に参画した。(山車休憩所の運営全て)

③ もりおか”を学生に伝えるグループワークの開催(2012年夏、2013年春)

学生達が一般の学生に参加を呼びかけ、グループワークを開催した。参加者に実際に盛岡のまちを歩いてもらい(JCI盛岡のプログラムを参考)、ほかの学生に伝えたい盛岡のいいところを模造紙にまとめた。この模造紙は多くの人に見てもらうため、大学内に掲示した。

参画学生達の活動実績、参考ページ

① NPCN(岩手大学まちづくりサークル)の公式HP

<http://npcn-npcn.jimdo.com/>

② NPCNのFacebook

<http://www.facebook.com/pages/NPCN/210814642377573>

以上の検証を踏まえ、JCI盛岡は目的が達成されたと判断した。

主語を忘れないこと、単語は7つ以下で1文とすること

## 行動:

2011 年

12/19 JCI 盛岡は地域の問題解決の為、市民参加型事業か市民ら参画事業チェンジする決定した

2013 年

1/30 JCI 盛岡は、盛岡市役所と地域社会における現在の問題点について意見交換を行った

2/16 JCI 盛岡は、被災者支援団体「モーリオの空」と地域社会における現在の問題点について意見交換を行った

4/9 JCI 盛岡は、岩手大学国際交流センターにおいて、地域社会における問題点を外国人留学生と意見交換を行った。

5/10 JCI 盛岡は、大学生達と地域社会における現在の問題点と、このまち(コミュニティ)の魅力について意見交換を行った。

6/11 JCI 盛岡は、WEB サイトにて告知を開始した。

6/11 JCI 盛岡は、関係各所でチラシ(3000 枚)とポスター(200 枚)配布し、参加を募った。

6/30 JCI 盛岡、グループワークとプログラムの予行演習を実施した。グループワークでは参加者の意見のまとめ方を反映させた。プログラムの予行演習では時間配分と街中を歩く際の注意点を確認した。

7/4 JCI 盛岡は、グループワークを開催した。(参加者 51 名 JC23 名、一般 28 名)

7/10 JCI 盛岡は、グループワークの結果をプログラムに反映させた。

7/12 JCI 盛岡は、プログラムへの参加について、ラジオ放送を通じ市民に発信した。

7/14 JCI 盛岡は、盛岡市において事業を行った。プログラム当日アンケートを実施した。

7/15 JCI 盛岡の地域向上を発信する新聞記事が掲載された。

全部で 200 字以上  
2000 字以内程度

読めば委員会の事業前から

事業後までの動きが

だいたい、大まかに解るようにして下さい。

## 考察や推奨

### 参画学生とのミーティング>

我々は、「まちの価値の創出」をテーマにJCI盛岡と参画学生とで協議を重ねた。

その際、参画学生の意見や案を積極的に取り入れることで、自由で枠にとらわれない発想を引き出した。

初期段階において、テーマに制限を入れすぎないことは重要であった。

### <参画学生主体のグループワーク>

JCI 盛岡と参画学生が、盛岡市民(citizen)に対し、「まちの価値の創出」をテーマにグループワーク実施した。

JCI 盛岡は学生達をサポートし、参画学主導で進行した。

権限と責任を与えることで、学生達はより能動的に自らまちの価値の創出を考え、より能動的に、ファシリテーターとして市民(citizen)を誘導した。

この時点で参画学生達は positive change したと判断できる。

### <参画学生主体のプログラム実施>

ただまちを歩き、写真を撮るではこのプログラムの意味はない。

一つ一つの歴史を掘り下げ、それを正しく伝える。

そして、まちをより良くしたいという若者達と触れ合う。

この要因があって、本プログラム実施後 citizen は active citizen へ positive change した。



	<p>&lt;想定以上の結果&gt;</p> <p>① 事業後、参画学生たちが「まちづくりサークル」を立ち上げた。 これは、JCI盛岡が学生達に対し、地域開発事業への参画機会を提供した。 共同で事業構築を行うことで、学生達が PositiveChange した結果である</p> <p>② 協力団体と綿密な打ち合わせを行う事で、より良い信頼関係が構築された。 JCI 盛岡のプログラムを利用し、専門学校の授業が行われた。 また、NPO 法人が歴史的建造物をめぐるプログラムを行った。</p> <p>③ 新聞社 2 社の取材が得られたため、461,500 世帯へと広範囲に事業を発信することができた。</p> <p>&lt;要因、工夫&gt;</p> <p>参画者の自主性を尊重した参画者主体の事業構築としたから。</p>
	<p>&lt;本事業の特色&gt;</p> <p>①参加した市民(citizen)に対し、まち(コミュニティー)の価値を認識するプログラムを提供した。</p> <p>②参画学生達に対し、プログラムの立案から実施にいたるまでの共同事業構築の機会を提供した。</p> <p>その結果、市民(citizen)と参画学生達は PositiveChange し、市民(citizen)は能動的に地域開発にかかわり、参画学生達は能動的にまちの問題点を解決する為に行動を始めた。</p>

<p>全部で200字以上</p>	<p>対内評価 JCI 盛岡メンバーよりヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・盛岡市の魅力はたくさんある。気が付いていないだけ。</li><li>・参加者の笑顔が象徴的。満足度の高さがうかがえた。</li><li>・年代、性別、国籍に関係なく参加できる事業であった。</li><li>・見知らぬ参加者同士や参加者と町に住む人々が偶然に出会い、会話をするという、まち(コミュニティ)と人を繋げる事業だった。</li></ul>
	<p>以下の方から評価を頂いています。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・岩手県公会堂副館長 佐藤文彦氏</li></ul> <p>この運動は盛岡市を深く知る、学ぶ上で有意義であった。</p> <p>私たちも盛岡市の歴史的建造物を保護するだけでなく、歴史的背景やまち(コミュニティ)との関わりを訴える事業を行う上で、参考にさせていただいた。</p>
	<ul style="list-style-type: none"><li>・河北新報(発行部数 444,000 部)</li><li>・盛岡タイムス(発行部数 17,500 部)</li></ul>